

# 習

三年

画数 11  
筆順 一ヨ羽羽習  
オン シユウ  
クン ならいウ

成り立ち



おやゆびの形をあらわし、「百」という字のものと字である「白」と、鳥のつばさの形をあらわした「羽」とを組み合わせて作った字です。

ひな鳥が親鳥に「ならい」「羽を百回羽ばたく」ことをあらわした字です。同じことをなん回となくくりかえすことをあらわした字です。

ひな鳥が「くりかえし」羽ばたいていきますと、それまでとべなかつたものがとべるようになります。「できないことをできるようにするために、ものごとをくりかえすこと」を「ならう」といいます。

「ならう」ことは「慣れる」ことでもあります。それで、「習慣」ということが作られました。

使い方

▽わたしは、ピアノを習っています。練習は、とてもむずかしいけれど、きれいにひけた時は、うれしくて、ピアノを習ってよかったとおもいます。

▽古川くんは、とても字が上手です。ぼくの字は、あまりうまくありません。古川くんを見習って、ぼくもきれいな字を書きたいと思います。

熟語例

▽練習（なにかを、くりかえして習うこと。「バントがうまくできるように、いっしょうけんめい練習した」などというふうに、つかいます。）

▽学習（学び習うこと。とくに、学校などで、勉強することをいいます。「理科の時間に、こん虫について学習した」などというふうに、つかいます。）

▽復習（学習したことを、自分で、くりかえして勉強すること。㊦「予習」。「学校で習ったことを復習すると、ないようがみにつきます。復習をしないと、せっかく習ったことを、わすれてしまうことが多いのです」などというふうに、つかいます。）

# 集

三年

画数 12  
筆順 イ 竹 隼 集  
オン シユウ  
クン あつまる 集まる つどいウ

成り立ち



鳥の形をあらわした「隼」と、「木」とを組み合わせて作った字です。鳥はよく木の上に「集まる」ものですから「木」という字の上に「隼」をのせて「集まる」という意味をあらわしたものです。

今では、鳥にかぎらず、「あつまる」「あつめる」ということをあらわすのにつかいます。古いことばでは、「あつまる」ことを「つどい」ともいいましたので、「集」を「つどい」とも読みます。㊦老人の集い。

使い方

▽家を出るのがおそかったので、集合場所について時には、ほとんどの人がもう集まっていました。

▽ぼくたちのクラスでは、学期ごとに文集を作っています。クラス全員の作文が一つずつのっています。

熟語例

▽集合（一つとところに集まり合うこと。一つの団体が一つのばしよに集まること。）

▽文集（多くの人が書いた文を集めて一さつの本にしたもの。文の集まり）

▽詩集（多くの詩を集めて一さつの本にしたもの。藤村詩集、白秋詩集など、詩人の名前をつけてよばれることが多い。）

▽集中（二つのところに集まってくること。㊦都市集中。また、一つのことを心を集めること。㊦集中力のつよいひと）

▽集散（ものが集まったり、散ったりすること。またものを集めたり散らしたりすること。あるしなものやげんりようを集めて、それをとりさばく土地のことを「集散地」といいます。）